

# 〈東北・新潟の活性化応援プログラム〉 2019年 助成団体活動成果レポート

助成団体

一般社団法人 **チガノウラカゼコミュニティ**

宮城県多賀城市

プロジェクト名

## 多賀城古代米を地域の誇りに!



### ■地域の課題

持続的な地域形成のため、「地域の誇り」に着目した次の3つを目的として掲げました。

1. 古代米田んぼ体験を通し、次世代が「地域の誇り」をイメージする契機とします。
2. 次世代のための活動に協力することで、まちづくりの連携できる体制を構築します。
3. 「地域の誇り」を多くの方と共有し、持続的なまちづくりへ活かします。



### ■当団体の紹介

多賀城の歴史を象徴する「古代米」を地域の誇りとして受け継いでいくため、市内全小学5年生、同日の田植え、稲刈り体験を実施し継続します。その運営に多くの市民・団体・行政が関わる体制の構築を目指しています。





## プロジェクトの概要

### ■背景・目的は？

#### ◎プロジェクトのゴールのかたち

- ゴール(1) 田んぼプロジェクトがレギュラーイベントとして定着すること
- ゴール(2) 田んぼプロジェクトへの運営面・資金面での協力体制が形成されること

### ■具体的な活動は？

協力体制構築のための企画説明と、学校への参加声がけを推進しました。

#### [PTA 連合会へ]

##### 2019年

- 6月 企画説明し理解を得ました。
- 7月 理解を深めるため、PTA 自ら稲刈り体験を行う計画をたて参加を募りました。
- 10月 約100名の参加がありましたが、悪天候のため、体育館での講義となってしまいました。稲刈り体験はできませんでしたが、田んぼプロジェクトへの理解は得られました。
- 12月 PTA 連合会による運営スタッフ協力の基本計画をたてました。

#### [行政・学校へ]

##### 2019年

- 12月 多賀城市産業部商工観光課へ企画説明し理解を得ました。
- 12月 多賀城市教育委員会文化財課へ企画説明し理解を得ました。
- 12月 多賀城市教育委員会学校教育課へ企画説明し理解を得ました。
- 12月 校長会へ企画説明し各学校参加の検討に入りました。

##### 2020年

- 1月 八幡小学校が参加表明しました。
- 3月 コロナウイルス感染防止のため田植え事業中止決定し、活動が保留となりました。
- 10月 城南小学校のみで稲刈り体験を開催しました。

#### [観光協会へ]

##### 2019年

- 12月 多賀城市観光協会の理事会にて企画説明し理解を得ました。実施計画後(3月頃)に、企業への声がけを行うこととしました。

##### 2020年

- 3月 コロナウイルス感染防止のため田植え事業中止決定し、活動が保留となりました。

#### [留意点]

- 関係者の立ち位置により見え方が異なるので、説明先にあわせた企画書を作成しました。
- 説明順番を気にする方が多いので、差がでないよう短期間で一気に説明に廻りました。



セミナー風景



田んぼを案内



みんなで田植え体験



自分の手で苗を植える

## ■活動の成果は？

- 広く関係者へ声がけしたことにより、同じ旗に向かう動きが出ました。
- 市役所の部署をまたぐプロジェクトですので、新しい動きとしてスタートできました。
- 学校行事開催には、関係者が多く、承認を得るのに難易度が高いことが分かりました。
- 校の地域行事は、外が主導したほうがレギュラー化しやすいことが分かりました。

「東北電力さまの支援を得たプロジェクト」であることで、信用度が増し巻き込みやすくなりました。我々ただだったら、声がけも更に時間がかかったのではないかと思います。市役所や学校に対してもスムーズに理解していただくことができました。



イベントの下見



悪天候のため体育館での講義



稲刈り



収穫した古代米

## 団体からのコメント

コロナ禍での開催できない状況が続いた場合、新たな展開を関係者で話し合わなければいけません。仕切り直し、関係性構築に主眼を置いた展開に転換する可能性があります。

現状、開催準備のみ構築しましたが、関係性を維持し続けなければいけません。それと、開催が延期になるほど資金不足になるので、資金を新たに調達することを考えています。

コロナ禍での新たな展開として、オンライン会議をまちづくり連携のインフラとして推進することに取り組んでおります。これらを含めた事項の経営的な確立を目指しています。

本プロジェクトをきっかけに関わった各所へ「観光まちづくり」の提案をしておりました。当初含めていなかった市民団体をはじめ、ビジョン実現へ向けた動きが加速するのではないかと感じています。幅広い世代へ、本当の意味での「まちづくり」の実践へ取り組んでまいります。

